

平素より、弊社嵐山線（通称：嵐電）の運行に関し、ご理解賜り誠にありがとうございます。

京福電気鉄道（本社：京都市中京区・代表取締役社長：岡本光司）では、本日1月30日（月）、近畿運輸局長宛に軌道業の旅客運賃の上限変更認可申請を行いました。

申請の理由及び内容は以下の通りです。

ご利用のお客様にはご負担をおかけすることとなりますが、何卒ご理解の程お願い申し上げます。

1. 申請の内容

① 申請理由

この度申請いたします嵐山線は、明治43年以来、地域の皆様の日常の移動手段としての使命を果たしつつ、京都市内有数の観光地、嵐山をはじめとする沿線の社寺への観光ルートのひとつとしてご利用頂いております。

弊社では平成14年7月に普通運賃を均一化し、以後継続的に老朽化した車両機器及び台車の更新、ATSの増設等による運転保安度の向上、駅施設のバリアフリー化等による旅客サービスの向上、重軌条化や変電所の更新等保守作業の合理化など諸施設・設備の更新を進めてまいりました。他方、増収対策はもとより、諸経費の削減を図り、経営の合理化等、赤字経営から脱却する努力を続けて参りました。

しかしながら嵐山線におきましては、営業距離が短く、沿線のほとんどが既成市街地であり、今後住宅開発される余地も少なく、沿線人口も年々高齢化が進む状態にあります。また、複数の他の交通機関とも競合関係にあり、ベースとなる定期的な利用者は年々減少傾向が続く状況であります。一方で近年は最低賃金の上昇による人件費増加や、その影響を受けた工事費等の増加により、今後の収支見通しにおいては現行運賃では収支改善を図ることが困難な状況です。

こうした状況下、平成28年4月には北野線に「撮影所前」駅を新設し、JR嵯峨野線との結節改善を図り、平成29年春には嵐山本線西院駅において阪急京都線との結節改善、バリアフリー化実現に向けた整備を進めております。今後もバリアフリー化や旅客サービス設備の改善、並びに運転保安度向上等の投資を継続的に実施していかねばならず、特に今後5ヶ年の設備投資計画においては高齢化や近年急増したインバウンド観光客への対応のために、集中的に駅のバリアフリー化、旅客サービス設備の改善を進めることとしております。

安全を確保しつつ行う計画の設備投資増加への対応と、経営の安定化に向け収支改善を図るため、この度普通運賃の改定と、定期運賃制度変更の認可をお願いするものであります。

② 申請の概要

A. 運賃

運賃区分	申請
普通運賃（大人）	220円
普通運賃（小児）	110円
通勤定期（1ヶ月・大人）	7,500円 （均一制）
通学定期（1ヶ月・大人）	4,000円 （均一制）

B. 定期運賃割引率

通 勤 43.2%（現行15.6%～59.7%）

通 学 69.7%（現行38.4%～73.3%）

③ 実施予定日

平成29年 4月 1日

④ 改定率

運賃区分	増減率
普通運賃（大人）	4.762%
普通運賃（小児）	0.000%
通勤定期（1ヶ月・大人）	4.948%
通学定期（1ヶ月・大人）	▲18.328%
合 計	2.978%

⑤ 申請・現行運賃比較表

(1) 普通旅客運賃

	現行	申請
大人（均一制）	210円	220円
小児（均一制）	110円	110円

(2) 通勤定期旅客運賃（大人1ヶ月）

	現行	申請
1キ口	5,080円	7,500円 (均一制)
2キ口	5,890円	
3キ口	6,700円	
4キ口	7,510円	
5キ口	8,320円	
6キ口	8,900円	
7キ口	9,480円	
8キ口	10,060円	
9キ口	10,640円	

(3) 通学定期旅客運賃（大人1ヶ月）

	現行	申請
1キ口	3,360円	4,000円 (均一制)
2キ口	4,000円	
3キ口	4,640円	
4キ口	5,280円	
5キ口	5,920円	
6キ口	6,380円	
7キ口	6,840円	
8キ口	7,300円	
9キ口	7,760円	

2. 軌道部門収支実績及び推定

(単位：百万円)

	平成 27 年度 実績	平成 28 年度 推定	平成 29～31 年度予想 (3 か年合計)	
			現行	申請
収 入	1, 3 4 4	1, 3 4 4	4, 0 3 2	4, 1 4 3
支 出	1, 4 1 2	1, 4 1 4	4, 5 1 9	4, 5 1 7
差 引	▲ 6 8	▲ 7 0	▲ 4 8 7	▲ 3 7 3
収支率	9 5. 1 %	9 5. 0 %	8 9. 2 %	9 1. 7 %

3. 運賃収入内訳

(単位：百万円)

	平成 27 年度 実績	平成 28 年度 推定	平成 29～31 年度予想 (3 か年合計)	
			現行	申請
定期外	1, 1 0 3	1, 1 0 3	3, 3 1 0	3, 2 6 3
定 期	1 4 5	1 4 5	4 3 4	5 9 3
合 計	1, 2 4 8	1, 2 4 8	3, 7 4 4	3, 8 5 6

4. 輸送人員の推移及び今後の需要見通し

(単位：千人、%)

	25 年度 実績	26 年度 実績	27 年度 実績	28 年度 推定	29 年度 推定	30 年度 推定	31 年度 推定
定期外	5, 303	5, 503	6, 256	6, 256	5, 650	5, 650	5, 650
定 期	1, 846	1, 917	1, 636	1, 636	2, 242	2, 242	2, 242
合 計	7, 149	7, 420	7, 892	7, 892	7, 892	7, 892	7, 892
前年比	+0. 8%	+3. 8%	+6. 4%	±0. 0%	±0. 0%	±0. 0%	±0. 0%

5. 設備投資実績・計画

(1) 設備投資計画と実績

(単位：百万円)

	25 年度 実績	26 年度 実績	27 年度 実績	28 年度 推定	29 年度 推定	30 年度 推定	31 年度 推定
安全対策	144	116	229	205	352	445	420
サービス改善等	16	34	10	205	63	161	139
合計	160	150	239	410	415	606	559

(2) 主要プロジェクトの内容

① 西院駅結節改善《実施中事業》

【概要】西院駅嵐山行きホーム移設、四条大宮行きホーム改良による阪急京都線との乗り継ぎ円滑化とバリアフリー化

【目的・効果】当社線ホーム移設と阪急西院駅東改札口整備により、阪急京都線との乗り継ぎ距離・時間が短縮されます。合わせてエレベーターやスロープの整備により、バリアフリー化が実現し、旅客利便性・安全性を向上します。

【投資額】196 百万円

② 既設停留場のバリアフリー化《新規事業》

【概要】バリアフリー化未整備の停留場のスロープ整備、嵩上げ等による段差解消の実現
平成 29 年度：常盤

平成 30 年度：北野白梅町・等持院・龍安寺

平成 31 年度：御室仁和寺・宇多野・鳴滝

平成 32 年度以降嵐山本線の専用軌道の各駅

【目的・効果】ホーム出入口のスロープ整備と嵩上げによる乗降口との段差解消、警告ブロッックを設置し、高齢者や身体の不自由な方に利用し易い駅施設へと改良します。

【投資額】230 百万円

③ 運行管理システム・信号システム・ATS の更新《実施中事業》

【概要】老朽化した運行管理システム、信号システム、ATS を更新

【目的・効果】耐用年数を経過し、部品供給が困難になっている機器類について、平成 28～31 年度の 4 箇年計画で一括して更新。機器故障による輸送障害の発生頻度低減や今後の保守作業の効率化を図ります。

【投資額】575 百万円

④ 台車・制御器等の更新《実施中事業》

【概要】600 形・21 形・500 形（計 9 両）の台車・制御器を更新

【目的・効果】製造から 50 年以上が経過し部品供給が困難になっている台車や制御器について、平成 32 年度末を目途に計画的に更新することで、輸送障害による遅延や運休の発生頻度を低減させ、安定した輸送を確立します。

【投資額】515 百万円

⑤ 各駅への可変式案内装置、公衆無線 LAN 設備の新設《新規事業》

【概要】各停留場に多言語対応の可変式案内装置、公衆無線 LAN 設備を新設

【目的・効果】観光路線の要素の強い嵐山線において、平成 29～31 年度の 3 箇年計画で、急増している訪日外国人旅行者や、不慣れな観光客へのご案内の充実のため、電車の運行状況や行き先をお知らせする液晶ディスプレイを用いた案内装置や、利用者からご要望の多い公衆無線 LAN 設備を整備します。

【投資額】78 百万円

6. これまでの経営合理化の状況及び今後の取組

各部門とも運輸安全マネジメントに基づき定めた安全基本方針の下、安全確保を最優先課題として取り組む一方、技術部門においては、可能な業務については外注化による職員の削減を行うとともに、土木部門・電気部門を統合し省力化を図っております。運輸部門においては、駅係員の嘱託、アルバイト化、2 両運行時の後部乗務員についてもアルバイト化を行い、いずれも安全を確保しつつ必要最小限の人員配置で、可能な限り効率的な運用を行っております。

今後も現状のローコスト運用を継続するとともに、効率的な運営を行ってまいります。

7. 利用者サービスの向上策

① 「撮影所前」停留場新設によるJR嵯峨野線との乗り継ぎ改善

平成27年4月1日に北野線帷子ノ辻～常盤間のJR嵯峨野線太秦駅から徒歩約3分の地点に「撮影所前」停留場を新設し、当社線内とJR各線間の乗り継ぎ利便性を向上しました。

② 既設停留場・車両のバリアフリー化

平成29年度以降の中長期的な投資計画の中で、これまで未着手であったバリアフリー化未対応の専用軌道の停留場について、高齢者をはじめ多くの利用者の皆さまにとって利便性が向上するよう整備を進めてまいります。

また平成28年度において車いすスペースや扉幅が不十分な500形車両2両について、扉位置の改修や座席配置の見直しを行う改修工事を実施しています。

③ ICカード乗車券の全国相互利用対応

平成26年3月23日より全国の交通系ICカードの相互利用に対応。全国から京都へお越しのお客様に、普段ご利用のICカードがそのままご利用頂けるサービスを提供しています。

④ 多言語による運行情報等の提供

平成29年度以降、各停留場において多言語で電車の運行状況表示や接近放送に対応した端末を設置し、利便性の向上を図ります。

⑤ ダイヤ見直しによる夜間運行本数増便、朝ラッシュ時間帯の2両運行時間帯の延長

本年3月に予定しているダイヤ改正においては、21時以降の夜間時間帯について増便を行い、お出かけ帰りの沿線のお客様の利便性向上を図ります。また平日の朝ラッシュ時間帯における2両編成運行時間帯を延長し、ラッシュ時にも余裕を持ってご乗車頂けるようサービス向上に努めてまいります。

⑥ 定期券均一化による利便性向上

定期券を均一化することにより、区間を問わずご利用頂けるようになります。特に通学定期券については、直接家計への負担に繋がる事を考慮し、大幅に値下げした運賃設定と致します。

8. 情報へのアクセスについての情報

① 運賃改定申請に関するお問い合わせ先

鉄道部事務所 TEL 075-801-5328

② 運賃・料金・時刻等に関するお問い合わせ先

鉄道部運輸課 TEL 075-801-2511

③ 情報サービスのご案内

ホームページアドレス <http://randen.keifuku.co.jp/>